

# おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—そんな遊びが生活の力に—

NO. 96



私はまだ現金派なので、買い物する時には、お札入れと小銭入れを両方使うことが多いです。先日も、千円ちょっとの買い物をして、支払う際に、カバンの中からお札入れを取り出し、千円札を一枚、そして小銭入れを探しました。手探りで探すのですが、なかなか見つからない。四角くて、カバンの中の他の物より少し分厚い小銭入れです。「あれ？ ないなあ…」後ろで次の人が待っているので、ちょっと慌てました。「おかしいな」とカバンの中をのぞくと、カバンの中の別の小さなポケットに隠れていました。な～んてことありませんか？

手探りって不思議な力ですね。手に目はないのに、触っただけで、頭の中に小銭入れの絵が浮かんでくるんですよ。確実なのは、まちがいをなく目で見ることですが、日常には手探りで済んでしまうことってたくさんあります。今回は、いつもは気にしないそんな力のお話です。

他にも、手探りで済ませていることがあるのですが、思い浮かべてみてください。例えば…、ポロシャツのボタンをはめたり外したりするとき、ズボンの後ろの裾をしまうとき、トレーナーを首から入れて両袖の穴をまさぐって探すとき、急いで靴を履くとき、お尻を拭くとき、服のポケットからクルマのキーを出すとき、ソファの下に入っちゃった物を取るとき、夜停電して懐中電灯を探すとき。“こうなっているはず” “ここにあるはず” とイメージし手探りをすると思います。

この力、いつ身に付いたと思いますか？ どうやって覚えたと思いますか？ 誰も記憶にないと思います。でもね、小さい頃の遊びや“いたずら”の中に、この力を育む要素がたくさん盛り込まれていたんです。赤ちゃんは、まずは、スキンシップや揺れる感覚から、心地良さを感じ、感触の変化を楽しみだします。そして、何かを目で追ったり、触ってみたり、口に入れたりして、身近な物の存在を確かめ始めます。動けるようになると、その興味は広がってきて、目についた物を追いかけたり、ティッシュを箱から全部出しちゃったり、物を投げてみたり落としてみたり、コップの水を理由もなくこぼしてみたり、ごはんのプレートをグチャグチャにしたり。（これは大変です！）もっと動けるようになると、どこでもよじ登ってみたり、ブランコや滑り台をいつまでもいつまでも楽しんだり。これすべて、手探りで物を探す力の源なんです。物を見ないでイメージすることの原点なんです。「本当かな～」「ピンとこないな～」と思う方へ。本当です！

周りへの興味関心が薄めだったり、人の動きや音に敏感だったり、触れることにデリケートだたりすると、そんな遊びや“いたずら”の経験が少なくなっていることがあります。そしてそれは、動きのぎこちなさや関わり方の硬さに現れることがあります。「なんであんずに来て、ふれあい遊びやスライム、米粉粘土や新聞紙遊びをするのかなあ？」「何の意味があるのかな？」と疑問に感じる方もいるかと思います。じつは、そんなとても大切な力を楽しく育てていく時間なんです。人の育ちは奥が深いです。自分達も通過してきたことなんですけど…。またその都度詳しくお話します。

放デイの子ども達になると、いろいろなことが身に付いてきていますが、たまには耕したいところ。年齢も意識して、ルールを守ってスマートに、身体を動かすゲームや遊びの中に取り入れています。なかなか激しいです。あんずが壊れるかもしれません… (R6. 5) K

